

津川絵理子 選

アルバムに海貼りつけて夏惜しむ

生駒市 高橋 裕樹

【評】近年は猛暑で、夏を惜しむ気持ちには少なくなったが、こう言われると「夏惜しむ」がぴったり。アルバムに海の写真を貼って、ひと夏の思い出に浸るのだ。

鰻食ふため幾たびも乗りかへる

大野城市 野分 のわ

【評】鰻の美味しい店を目指して、なんとしてでも、という意気込みが伝わる。何度も電車やバスを乗り継ぐバイタリティーはすごい。

よその子も叱るあっぱっぱのおかん

神戸市 音羽 和俊

【評】昔は近所にこういう人がいたものだ。よその子であろうと関係なく叱る。「あっぱっぱのおかん」にこの人の性格や姿が見えてくる。

灯蛾掃いて捨て掃いて捨て捨て

勝浦市 加藤 義秋

どの子にも褒美のごとき夏休み

佐野市 桑原 博

クレジットカードは持たぬ街晩夏

豊岡市 神谷みゆき

下駄箱に眠る靴墨梅雨長し

日高市 田辺 英男

梅雨明けや句をつくりてはまた生きる

千葉市 笹沼 郁夫

黄昏の色の真夏の雨の朝

会津若松市 安藤 和繁

肝心な事は話さず帰省の子

横浜市 田中 清春



枝しおり折

井上久美子歌集『タフラブ』 日

常の小事から世界情勢まで臆せず詠んだ第2歌集。直球も変化球も自在に打ち返す野球の打者を思わせる。

△おんな…べき 母は…するべき

娘…べき 両手で折ったあの日の小

枝▽ (本阿弥書店、2970円)

晋樹隆彦歌集『追想賦』 3月に

逝った歌人にして出版人の著者。最

終歌集にも仕事への情熱がにじむ。

△何はあれ編集業は眼の仕事案ずる

日々を今朝もゲラ読む▽

(ながらみ書房、3080円)

高良真実著『はじめての文語短歌』

文語短歌ならではの表現を楽しむ

ための指南書。様々な短歌を鑑賞し

ながらよくある表記ミスや文法も学

べる。 (左右社、2640円)

坂口昌弘著『蛇笏賞の軌跡』 創

設60年を迎えた俳句界最高峰の蛇笏

賞。受賞作のうち35句集の評価され

た点を丁寧に読み解く。

(KADOKAWA、2970円)



題字デザイン・イラスト

福田美蘭